

1. 高次脳機能障がい者への看護師の関わり

目次

1 高次脳機能障がい者への
看護師の関わり

高次脳機能障がいの患者さんと関わる時、看護師はどんな視点を持っているのでしょうか？今月号は、看護師によるコラムです。

高次脳機能障がいには様々な症状がありますが、看護師が一番気を付けている事は「患者さんの安全」です。例えば注意力の低下がある患者さんは車椅子のブレーキをかけ忘れったり、歩行中によそ見をしてしまったりすることが良くあります。その結果転倒して怪我をしてしまうことも考えられます。看護師は患者さんに対して注意を向けるように声を掛け、文字や絵などで表示をして患者さんが気づきやすいように工夫し、注意力の喚起を行います。



また例えば「病識欠如」という症状があります。病識欠如とは文字通り患者さんご自身が「病気ではない」「どこも悪くないのになぜ入院するのか」と考えており、入院している必要性を理解できず、入院継続にあたって問題となることがあります。さらに病識がないことで家に帰りたいたいという願望が強くなり、離院してしまう危険があります。看護師は患者さんが病棟を離れたらブザーが鳴る機械を用いたり、定期的に（瞬間的にでも）居場所の確認を行ったりして離院を防ぐことを心掛けています。



さつまいもには、食物繊維が多く含まれているため便秘予防や改善、しいては大腸ガン予防にも効果があると言われております。この季節、ぜひ食べておきたい旬食材ですね。

しかし安全を優先するあまり患者さん自身を抑制するだけでは患者さんが辛くなってしまいリハビリが進まない事があります。家に帰りたいたい、と思う患者さんがいれば、まだ家に帰れないことを説くのではなく、どうすれば家に帰ることができるか？と一緒に問題解決に取り組む姿勢が必要と感じています。

高次脳機能障がいは幾つかの症状が重なって現れる事が一般的です。その人自身の元々の性格や習慣、生活環境等色々な影響を受けやすいという特徴もあります。患者さんは自分自身の病気に戸惑い、苦しんでいることをまず理解し、初めから全てを否定するのではなく本人のやり方もひとつの方法として認め、本人と生活の場の両方にあつた方法を探してすり合わせていくことが大切です。

